

2022年度 ESD業務実施報告

2023年1月31日
第2回 ESD/EPO運営委員会

主催イベントの開催について

2022年度中部地方ESD活動支援センター主催イベント／会合予定・実績

230112現在

区分	エリア	設営	開催時期	テーマ・内容	登壇者／関係者等	
ESD/SDGs 推進ネットワーク地域フォーラム	名古屋市 (ウインクあいち)	ハイブリッド	12/5 済	◆ 中部の地域ESD拠点の活動情報共有と意見交換(クローズ開催)	<ul style="list-style-type: none"> ESDの背景 講師:大鹿聖公先生(愛教大) コーディネーター:古澤礼太先生(中部大) ESD推進ネットワーク、EPO中部、中部ESDC活動内容の紹介 	
SDGs学生サミット	中部	オンライン	2/4	◆ ユースに対するSDGs活動交流を通じたESDの場の設営	<ul style="list-style-type: none"> SDGs関連活動に取り組む大学生チーム(6大学) 基礎自治体、NPO等とのSDGs取組とのコラボ 	
自然資産を活かしたESDダイアログ	福井県 勝山市	ハイブリッド	11/26-27 済	◆ 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークESDダイアログ2022～自然資産を教材としたSDGs教育とは(オープン)	<ul style="list-style-type: none"> 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークがホスト役で開催 第12回日本ジオパーク全国大会白山手取川大会成果を受け議論 中部エリアのジオパーク関係団体、地元ESD関係者 コメンテーター:水谷瑞希先生(信州大学) 	
多様な主体の連携促進、交流機会提供	学び合いの場①	—	オンライン	8/25 済	◆ 気候危機に立ち向かう地域や市民のありかたを考える(オープン)一般参加 52	<ul style="list-style-type: none"> 気候危機の科学とリスク・社会を変えるには:江守 正多先生(東京大学、国立環境研究所) 脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～:木原浩貴先生(総合地球環境学研究所)
	学び合いの場②	—	オンライン	9/1 済	◆ 気候危機問題からSDGs地域づくり・人づくりを考える(オープン)一般参加 48	<ul style="list-style-type: none"> 気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す:杉山範子先生(名古屋大) 気候危機ひとづくりまちづくりに関わる話題提供:福井県大野市くらし環境部環境・水循環課、坂井市総合政策部まちづくり推進課
	実践活動	福井県 大野市	ハイブリッド	11/25 済	◆ 脱炭素のまちづくり・人づくりワークショップ(地元地域リアル参加対象、オンライン中継)	<ul style="list-style-type: none"> 気候変動ワークショップ体験①「ミステリー」 気候変動ワークショップ体験②「ジグソー」 ディスカッション(体験内容を普及させていくために) ファシリテーター:水上聡子(アルマス・バイオコスモス研究所) 総括:佐藤真久先生(東京都市大)
	SDGs 社会教育研究ワーキング	富山市① 福井市② EPO中部③	リアル(ハイブリッド)	①6/21済 ②9/26済 ③12/20済	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 学び合いP検討、評価 ◆ ワークブック試行版内容検討 ◆ クローズ開催 	<ul style="list-style-type: none"> 中部大・古澤先生、PECとやま・塚氏、アルマス・バイオコスモス研究所・水上氏※2021年度メンバーと同じ 3回目ゲストアドバイザー 佐藤真久先生(東京都市大)

ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム

オンライン参加も可能です

中部地方ESD推進ネットワークフォーラム

ESD推進ネットワーク活動の拡充を図るため
中部地方の地域ESD拠点団体の活動交流と情報共有のための意見交換を行います

日時 2022年12月5日（月）13：00～15：30

場所 ウィンクあいち 906会議室（名古屋市市中村区名駅4丁目4-38）

対象 中部地方の地域ESD拠点団体（19団体／2022年10月現在）

プログラム（予定）

挨拶 環境省中部地方環境事務所

参加者自己紹介

基調講演

「ESDの今日的意義
～これからの社会を担う人づくり」**仮題**
大鹿聖公 愛知教育大学教授

現状報告

「環境省EPO中部・中部地方ESD活動支援
センターの取組」
原 理史 中部地方ESD活動支援センター責任者

参加者意見交換

「地域ESDの現状と課題」

コーディネーター

古澤礼太 中部ESD拠点協議会（RCE Chubu）事務局長
中部大学国際ESD・SDGsセンター准教授

申込方法

締切：10月31日（月）

- 裏面の参加票を送付いただくか、こちらの参加申込フォームから入力をお願いします。
- 現地参加者には交通費（各拠点1名様分）を支給いたします。
- zoomの参加URLは開催日前日までにお送りします。



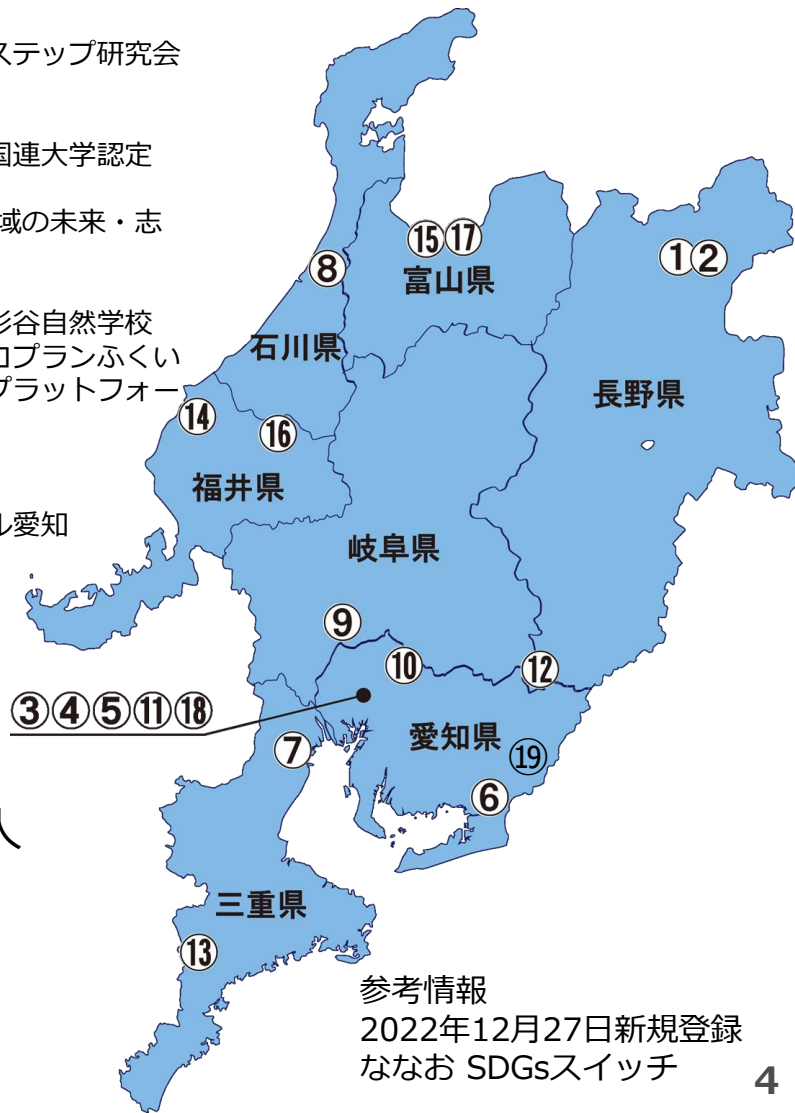
中部地方ESD活動支援センター
Education for Sustainable Development

問合せ

中部地方ESD活動支援センター
（環境省 EPO中部）
TEL：052-218-9073
FAX：052-218-8606
E-mail：office@chubuesdcenter.jp

- ①一般社団法人 長野県環境保全協会
- ②信州ESDコンソーシアム
- ③名古屋ユネスコ協会
- ④「なごや環境大学」実行委員会
- ⑤一般社団法人日本体験学習研究所
- ⑥豊橋ユネスコ協会
- ⑦一般社団法人ネクストステップ研究会
- ⑧石川県ユネスコ協会
- ⑨岐阜県ユネスコ協会
- ⑩中部ESD拠点協議会（国連大学認定 RCE Chubu）
- ⑪特定非営利活動法人 地域の未来・支援センター
- ⑫根羽村森林組合
- ⑬特定非営利活動法人大杉谷自然学校
- ⑭特定非営利活動法人エコプランふくい
- ⑮一般社団法人環境市民プラットフォームとやま（PECとやま）
- ⑯勝山市
- ⑰富山ユネスコ協会
- ⑱一般社団法人グローバル愛知
- ⑲加山興業株式会社

参考）中部の地域ESD拠点登録団体



オンライン13人
現地参加13人
計26人参加

参考情報

2022年12月27日新規登録
ななお SDGsスイッチ

SDGs学生サミット

ユースと自治体によるSDGsオンラインフォーラム
「中部地方SDGs学生サミット」

中部大学中部高等学術研究所デジタルアースルーム(壁面大型スクリーンと各種デジタルデータベースによるGIS活用)をハブとしたオンラインネットワークによるSDGsに向けた地域課題解決のためのディスカッションをオンラインで開催する。

○日時・場所 2023年2月4日

・コア参加(学生、自治体):オンラインミーティングに参加

・一般参加:動画のライブ配信

中部地方ESD/SDGs推進ネットワーク地域フォーラム



第1部 団体発表
若者にとってのSDGs
～学習活動等の取組紹介や展望～
中部地方に所在する
大学等の学生・ユースグループが
SDGsの取組・活動について発表を行います。

第2部 話題提供
地域のSDGsの取組
～自治体のSDGsの取組について～
中部地方のSDGs未来都市に選定されている
基礎自治体の担当者などから
施策や取組をご紹介します。

第3部 ディスカッション
ローカルSDGs達成のためにすべきこと、できること!
進行 原 理史(中部地方ESD活動支援センター)
総括 伊藤 恭彦氏(名古屋市立大学副学長、ESD/EPO運営委員会 座長)

一般参加 申込不要

- YouTubeライブ配信をご視聴いただけます。
- 視聴URLはWebページに掲載いたします。

Webページ

ハブとなる中部大学中部高等学術研究所
デジタルアースルーム

主催 ▶ 中部地方ESD活動支援センター (環境省EPO中部)
協力 ▶ 中部大学中部高等学術研究所、国際GISセンター問題複合体を対象とするデジタルアース共同利用・共同研究拠点

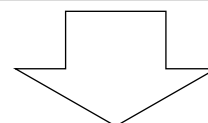
コア参加

ユース(学生) SDGs活動グループ学生 7大学37人(予定)

信州大学、富山大学、静岡大学【招待枠】、岐阜大学、
金沢星稜大学、愛知教育大学、松本大学

自治体職員 SDGs施策実施中の自治体3人(予定)

福井県鯖江市(2019年選定)
三重県いなべ市(2020年選定)
長野県大町市(2020年選定)



YouTube配信



一般参加者

自然資産を活かした地域・人づくりESDダイアログ<ジオパークESDダイアログ> ダイアログ参加53人、エクスカージョン参加16人

ユネスコジオパークに焦点をあてつつ、国立公園、世界遺産、世界農業遺産など自然資産を活用したESDの在り方をディスカッションするダイアログを開催する。地域資源の管理者や関係者、興味のある教育関係者に参加を呼びかけ、自然資産の実情と課題を認識しつつ、ESD活用のありかたについて意見交換することを目的とする。

恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク ESDダイアログ2022 ～自然資産を教材としたSDGs教育とは～

悠久の地球を体感できるジオパーク。生物と文化の多様性を育む大地を、持続可能性を支える自然の基(もと)として捉え、ESD教材としての活用を考えるダイアログを開催します。
様々なESD学習活動に携わる皆様はもちろん、自然やSDGsに興味のある方、参加をお待ちしています。



恐竜渓谷ふくい
勝山ジオパーク
DINOSAUR VALLEY FUKUI
KATSURUYAMA GEOPARK



残雪の白山と九頭川



恐竜化石発見現場



大矢谷白山神社の巨大岩塊(冬)

写真提供：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会

日程 2022年11月26日(土)～27日(日)

場所 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク

1日目 ESDダイアログ
★YouTubeライブ配信、後日公開予定あり

日時：11月26日(土) 13：30～16：40
会場：勝山市教育会館 1階 ホール
(福井県勝山市元町1丁目5番6号)

2日目 エクスカージョン

日時：11月27日(日) 8：30～14：30
場所：恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク
【出発】勝山エコーホテル
【解散】勝山駅経由・勝山市役所
★2日目の行程(バスで移動)は裏面を参照ください。

プログラム(1日目)

挨拶 水上 実喜夫(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会 会長)

挨拶 環境省 中部地方環境事務所

はじめに 染谷 祐太郎(環境省 白山自然保護官事務所)

第1部 基調報告

- 町 浪秋(恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会)
- 日比野 剛(白山手取川ジオパーク推進協議会)

第2部 事例報告

- 勝山市立平泉寺小学校
- 勝山市立村岡(むろこ)小学校

第3部 自然資産を教材としたSDGs教育を考える

パネルディスカッション

《パネリスト》ジオパーク関係者、勝山市教育委員会 予定
《モデレーター》水谷 瑞希(信州大学教育学部助教)
《コーディネーター》原 理生(中部地方ESD活動支援センター)

主催：中部地方ESD活動支援センター(環境省EPO中部)
後援：勝山市、恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク推進協議会、勝山市教育委員会

勝山で活用探る催し

ジオの自然を教材に

持続可能な開発のための教育(SDE)の教科書として、ジオパークの自然資源を活用するイベント「恐竜渓谷ふくい勝山ジオパークESDダイアログ2022」が26日、勝山教育会館で始まり、市内の教育関係者も参加。市内のジオパーク関係者ら約100人が参加し、事例報告を取り組む。ESD活動を通じて、ジオパークを教材として活用し、子どもたちにESDの考え方を伝える。市内の教育関係者も参加。市内のジオパーク関係者ら約100人が参加し、事例報告を取り組む。ESD活動を通じて、ジオパークを教材として活用し、子どもたちにESDの考え方を伝える。

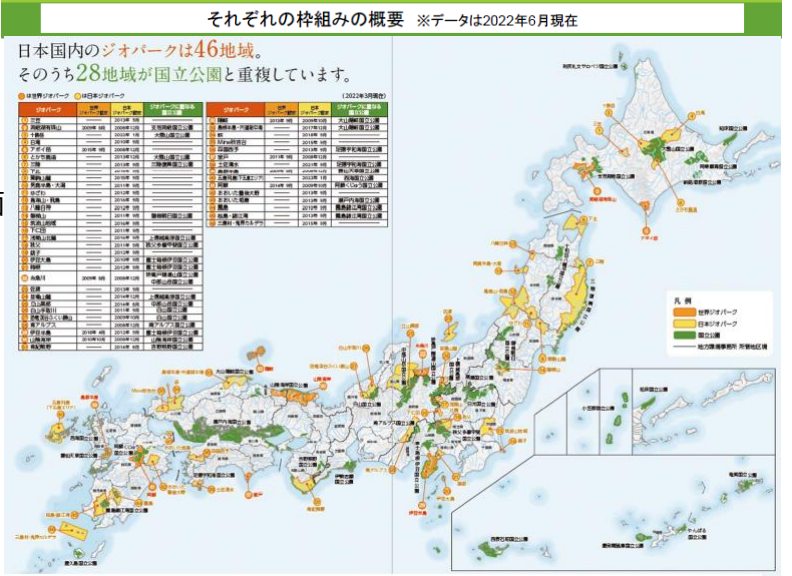
児童が活動事例報告

「D部活動(環境部)」「D部活動(環境部)」の児童が、市内のジオパーク関係者ら約100人が参加し、事例報告を取り組む。ESD活動を通じて、ジオパークを教材として活用し、子どもたちにESDの考え方を伝える。



福井新聞令和4年11月27日朝刊26面

	国立公園	ユネスコ		
		世界自然遺産	エコパーク (生物圏保存地域、生物圏保護区)	ジオパーク
国内数 (全世界数)	34 (約7,000)	5 (218)	10 (738)	世界ジオ9 (177) 日本ジオ46
意義	風景地の保護と利用の増進により国民の保健・休養・教化に資すると共に生物多様性の確保	人類が共有すべき「顕著な普遍的価値」を有する不動産を保護するための国際協力や援助体制の確立	生態系の保全と持続可能な利活用の調和、自然と人間社会の共生	地質遺産を保護するとともに、教育や研究、ツーリズム等に活用し、地域の持続可能な開発に寄与
ゾーニング	特別保護地区 特別地域 普通地域	コアゾーン バッファゾーン	核心地域 緩衝地域 移行地域	—
管理運営	環境省 (協働型管理運営)	国、都道府県	自治体、民間など広範な参画	
保全の担保	自然公園法	国内法令(自然公園法、文化財保護法、条例など)		



参考) 中部地方の自然資産、地域資源

中部地方のジオパークと関連する国立公園

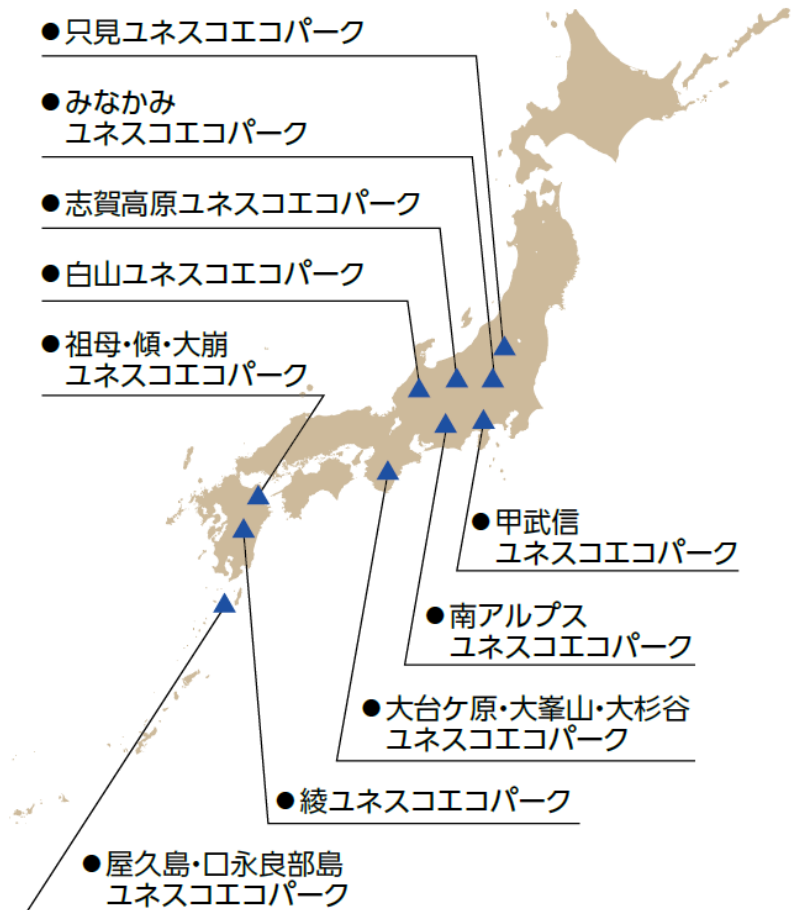
ジオパーク	国立公園
苗場山麓	上信越高原国立公園
立山黒部	中部山岳国立公園
白山手取川	白山国立公園
恐竜溪谷ふくい勝山	白山国立公園
南アルプス	南アルプス国立公園

中部地方の世界農業遺産・日本農業遺産認定地域

- ・富山県氷見地域「氷見の持続可能な定置網漁業」【日本農業遺産】
- ・石川県能登地域「能登の里山里海」【世界農業遺産】
- ・福井県三方五湖地域「三方五湖の汽水湖沼群漁業システム」【日本農業遺産】
- ・岐阜県長良川上中流域「清流長良川の鮎」【世界農業遺産】
- ・三重県鳥羽・志摩地域「鳥羽・志摩の海女漁業と真珠養殖業」【日本農業遺産】
- ・三重県尾鷲市、紀北町「急峻な地形と日本有数の多雨が生み出す尾鷲ヒノキ林業」【日本農業遺産】

中部地方のユネスコエコパーク

志賀高原
白山
南アルプス
大台ヶ原・大峯山・大杉谷



多様な主体の連携促進、交流機会提供

地域づくりのための気候変動社会教育

～5月

6-10月

11月

12月

1月～3月頃

準備

学びあいの場の開催と研究会

社会ESD実践活動

全国ESDフォーラム
(12月)

ワークブック
試行版のとりまとめ

- ・ ワークブック関連知見の収集と分析
- ・ 学びあいの場プロジェクトの実施計画

学びあいの場①の開催
(8/25)

・ 学びあいの場②の開催
(9/1)

第1回研究ワーキング
(6/21) 全体計画とワークブック改善の方向性

第2回研究ワーキング
(9/26) 学びあいの場実施の振り返り、実践活動の計画

・ SDGs社会教育実践セミナーの開催
(11/25)

・ 全国フォーラムへの参加
(12/10)

・ 第3回研究ワーキング
(12/20) ワークブックブラッシュアップ

・ ワークブック内容のとりまとめ

・ 試行版の公開



ワーキンググループ
古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授
水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所代表
堺 勇人 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長
原 理史 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員(非常勤)
ゲストアドバイザー 佐藤真久 東京都市大学教授

学びあいの場②講師陣
江守 正多 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
木原 浩貴 総合地球環境学研究所 客員准教授
杉山 範子 名古屋大学大学院環境学研究科 特任准教授



現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック
企業研修／生涯学習／地域づくりSDGs社会教育・学び合いヒント

- 目次(案)
- はじめに
1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
 2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか
 3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
 4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
 - (1) 海岸ごみからSDGsを考える
 - (2) 気候変動教育をまちづくりに活かす
 5. 具体的に実施してみる～中部地方の実例から③
 6. 実践効果をどう考えるか 具体的な測定方法

【成果】

オンラインセミナー2回(第1回60人、第2回61人参加)
気候変動ワークショップ(会場30人、オンライン21人参加)
専門家による研究会3回の議論とワークブック編集(予定)

SDGs社会教育「学びあいの場」①②オンラインセミナー

学びあいの場①8月25日16:00～18:00

1. 基調講演 (50分)

「気候危機の科学とリスク・社会を変えるには」

江守 正多 東京大学 未来ビジョン研究センター 教授
国立環境研究所 上級主席研究員

2. 話題提供 (30分)

「脱炭素社会を見えるものに～市民目線のまちづくり～」

木原 浩貴 総合地球環境学研究所 客員准教授

3. 質疑とフロアディスカッション・とりまとめと総括)

コーディネーター 原理史
中部地方ESD活動支援センター



学びあいの場②9月1日16:00～18:00

1. 基調講演 (50分)

「気候危機に立ち向かい持続可能なまちづくりを目指す」

杉山 範子

名古屋大学大学院環境学研究科附属持続的共発展教育研究センター 特任准教授

2-1. 話題提供① (20分)

「市民ワークショップによる「脱炭素」と「地域課題」の同時解決の図られた将来ビジョンづくり」

田中九一郎 大野市くらし環境部環境・水循環課 課長

2-2. 話題提供② (20分)

「まちづくりワークショップ・まちづくりカレッジによる気候変動へのアプローチ」

北川直規様 坂井市総合政策部まちづくり推進課 課長

3. 質疑とフロアディスカッション・とりまとめと総括 (20分)

コーディネーター 原理史 中部地方ESD活動支援センター
中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員



SDGs社会教育実践セミナーの開催

●地域づくりの担い手や次世代育成のための、気候危機対策のまちづくりワークショップをローカルSDGsの取組の一環として実践する。

●ローカルSDGsのための福井県版気候変動教育プログラム体験
ファシリテーター 水上聡子 アルマス・バイオコスモス研究所 代表
総括 佐藤真久 東京都市大学大学院環境情報学研究科 教授

開催場所：福井県大野市 結とぴあ（多田記念大野有終会館）

開催方法：現地開催、オンライン中継

開催日時：2022年11月25日（金）13:30～16:30

※ワークショップで用いる教材の著作権は、福井県および大野市に属しています。

①24枚のカードを使った
ミステリーワークショップ



福井県版気候変動ミステリー
ワークショップでは...

24枚のカードを使って、福井県や全国、世界で起きている現象の謎解きをします。様々な要因が複雑に絡まり合っていることを理解し、システム思考の力を養います。

②ジグソー法による
課題解決ワークショップ



課題解決ワークショップでは...

福井県や大野市のデータをもとに、ジグソー法を用いて持続可能な県や市の未来像や実現のための方法を考えます。ジグソーパズルのように、様々な分野を組み合わせた未来像を描き、実行のための方法を考えながら、未来予測、批判的思考、統合的問題解決の力を養います。

福井新聞令和4年11月27日朝刊26面



SDGs社会教育研究会WG

専門家コアメンバー

- 古澤礼太 中部大学国際ESD/SDGsセンター准教授 中部ESD拠点協議会事務局長
- 水上聡子 EPO中部運営委員 アルマス・バイオコスモス研究所代表
- 堺 勇人 EPO中部運営委員 一般社団法人 環境市民プラットフォームとやま事務局長
- 原 理史 中部地方ESD活動支援センター 中部大学国際ESD/SDGsセンター研究員（非常勤）

オブザーバー 原 慎一郎 環境省中部地方環境事務所 担当官

ゲスト（3回目のみ）

佐藤真久 東京都市大学教授

事務局

清本三郎 中部地方環境パートナーシップオフィス 統括

第1回研究ワーキング（6/21）：気候変動教育をテーマとした全体計画とワークブック改善の方向性

第2回研究ワーキング（9/26）：学び合いの場実施の振り返り、実践活動の計画

第3回研究ワーキング（12/20）：全国フォーラム振り返り、ワークブックへの反映



環境省 ESD推進ネットワーク 令和3年度学び合いプロジェクト
令和3年度中部環境パートナーシップオフィス運営業務

プロトタイプ編集版

現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック

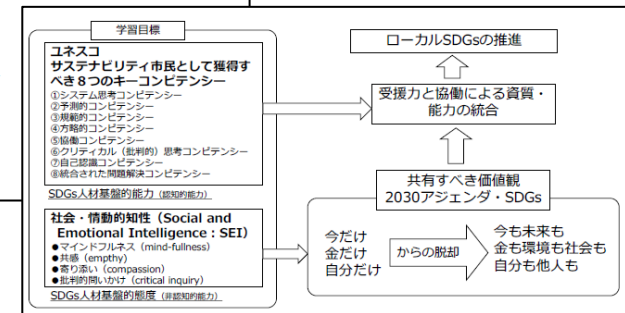
企業研修／生涯学習／地域づくり
SDGs社会教育・学び合いヒント

中部地方ESD活動支援センター SDGs社会教育研究会
2022年7月

目次

はじめに

1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2. 「SDGs社会教育」が目指すもの
3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5. 実践効果をどう考えるか



現場から学ぶ！SDGs人材育成ワークブック 企業研修／生涯学習／地域づくりSDGs社会教育・学び合いヒント

目次案

1. ローカルSDGs実現のための人づくり「SDGs社会教育」が必要なわけ
2. 「SDGs社会教育」の学習目標～どんな人になってほしいか
3. 実践方法を考える～中部地方の実例から①
4. 実践体制をどのように構築するか～中部地方の実例から②
5. 具体的に実施してみる～中部地方の実例から③
 - (1) 海岸ごみからSDGsを考える
 - (2) 気候変動教育をまちづくりに活かす
6. 実践効果をどう考えるか
具体的な測定方法

その他

① 専門家に包括ヒアリング(1名／回)

- ・ 愛知教育大学地域連携センター長 教授 大鹿聖公先生を予定(2/14)

② 教育部局、教育員会、現場の教員等(2名／回予定)

- ・ ユネスコスクール東浦町立緒川小学校の担当教諭を想定
- ・ その他は未定